

第 26 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞

奨励賞受賞者

<氏 名> 能瀬 さやか (のせ さやか)
<所属等> 国立スポーツ科学センター契約研究員
<生 年> 1979 年 (45 歳) ※年齢は、2024 年 3 月 18 日時点
<学 歴> 2003 年 北里大学医学部卒業
<学 位> 医学博士 (富山大学)
<職 歴> 2004 年～2006 年 同愛記念病院研修医
2006 年～2012 年 東京大学医学部産婦人科学教室入局
東京大学医学部附属病院産婦人科
総合母子健康センター愛育病院、焼津市立総合病院
東京日立病院、八戸クリニック産婦人科
2012 年～2017 年 国立スポーツ科学センターメディカルセンター
2017 年～2023 年 東京大学医学部附属病院女性診療科・産科
国立スポーツ科学センター婦人科非常勤
2023 年 4 月～ 国立スポーツ科学センター契約研究員

<その他役職>

日本パラリンピック委員会女性スポーツ委員会委員長
日本パラスポーツ協会理事
日本スポーツ協会女性スポーツ委員会委員
一般社団女性アスリート健康支援委員会理事

能瀬さやか氏は、2012年から国立スポーツ科学センタースポーツクリニック女性外来を担当、2017年には国立大学として初の東京大学医学部附属病院女性診療科「女性アスリート外来」を立ち上げ、女性アスリート特有の健康問題に対し障害予防やコンディショニングの点から、スポーツに参加する女性が健康で競技生活を長く送ることが出来るよう多くの女性アスリートの診療を行ってきた。

同氏の女性アスリートの三主徴（利用可能エネルギー不足、視床下部性無月経、骨粗鬆症）の研究、OC・LEP（低用量ピル）に関する調査研究、妊娠期・産後に関する研究において、これらの業績が高く評価され日本産科婦人科学会で2019年度学術奨励賞を受賞した。

女性アスリートの三主徴について海外では多く報告されているが、日本人女性を対象としたデータは少ない現状にあった。スポーツ庁委託事業女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」で女性アスリートの三主徴の頻度について大規模な調査を実施し、無月経の頻度について競技特性別や大会のレベルに分け調査を行い、競技レベルを問わず取り組むべき課題であることを明らかにした。

また、女性アスリートの三主徴と疲労骨折の関連についても調査した結果、三主徴を有するアスリートは疲労骨折のリスクが高い結果となった。これらの調査から日本人女性アスリートにおける三主徴の現状、低骨量の関係因子及び治療についての調査結果によりジュニア期からのスクリーニング体制の構築が課題であり、女性アスリートのみならず女性のヘルスケアにも応用できる結果であり、今後、女性全体の予防医学に活用されることを期待することからその予防や治療の研究に取り組んできた。

これらの成果を国内外の学会（主演者のみ：海外2 国内84）に発表し、数多くの報告書や研究論文（主著のみ：英文11 和文58）として公開してきた。

また、これらの研究を基に診療のためのガイドラインを作成し、産婦人科医に向けた講習会を開催し普及、啓発を行うとともに、アスリートや指導者、教育関係者や保護者向けに動画や啓発資料を数多く作成し、アスリートを支える方々へのサポートや情報提供を行っている。

同氏は日本スポーツ協会においても女性スポーツ委員会委員や国民スポーツ大会委員会医事部会委員、スポーツ少年団や公認スポーツ指導者制度におけるスポーツドクター養成講習会での講師を務めるなど活躍をしている。

また、日本パラリンピック委員会女性スポーツ委員会委員長に就任し、パラスポーツの女性アスリート支援システムを構築し、パラアスリートに対するサポートも行っている。

同氏のこれまでの女性スポーツサポートに係る功績と今後の更なる発展を期待して奨励賞を授与する。